

学 校 名	山 形 市 立 南 小 学 校 山形市青田二丁目1番1号 TEL 632-3660 FAX 631-9019	校 長	阿部 忠彦
		研究主任	大宮 利典
研 究 主 題	学び合い、共に伸びる子どもの育成 (3年次)		
研 究 主 題 設 定 の 理 由	(1) 子どもの実態から 本校子どもの長所として、次の点があげられる。 ☐ 計算の技能や文章の読み取りなど覚える事に、真面目に努力する。 ☐ 素直で、目標に向かって一生懸命取り組む。 ☐ 自分で考えてまとめたり、1つの正答を求める事ができる。 反面、課題として、次の点がある。 ☐ 学習や生活が、受け身になりがちである。また、話を心で聞き、大切な事をとらえる事が足りない。 ☐ より良い価値のものをめざして、自ら調べ判断し、相手にわかるように表現する力が弱い。 ☐ 多様なものの見方や考え方が十分でない。 以上の実態から、主体的に人・社会・自然にふれ合い関わり学び合う事によって、集団思考で広め深める事ができたり、自他をより良く変容させていく子どもに成長すると考えた。 (2) 学校教育目標の具現化をめざして 本校では、『豊かな感性を持ち、たくましく実践する子の育成』を掲げ、具体的な子ども像として、 わ になって共に学ぶ子 た すけ合い、進んで働く子 か んじたことを生き生きと表現する子 け んこうで美しい心を持つ子 をめざして取り組んでいる。 そのためには、物事に十分に接し学び合う事によって、美しい・尊い・大切等と心で感じ、自他を伸ばしていこうとする心情や態度が育つと考えた。 (3) 新学習指導要領から 新学習指導要領は、「生きる力」の育成と基礎・基本的な内容の確実な定着をねらいとしている。 「生きる力」は、主体的に学び行動し、より良く問題を解決する力、他人を思いやる心や感動する心など豊かな人間性、たくましく生きるための健康や体力である。 「基礎・基本」は、読み・書き・計算などの基礎的な知識・技能のみではなく、主体的に学ぼうとする意欲や考える力、自分の考えを的確に表現できる力、判断する力である。これは、「生きる力」を育む上で不可欠な要素である。 これらのねらいにせまるためには、自分から人・社会・自然にふれ合い関わり、主体的に学び合う事が必要と考えた。		
研 究 の 目 標	(1) 研究仮説をもとにした「関わり合う力」・「学ぶ力」・「生かす力」を付けるための手立て・支援の検証。 (2) 子ども・支援者の指導・評価（ポートフォリオ等）の一体化。		

研究 仮 説	(1) 人・自然・社会と関わり合いながら課題解決を図る単元を設定し、関わり方を支援し体験させていくことにより、子ども達はより良い関わり方を考え、進んで関わるができるようになるであろう。 (2) 子どもの思いや願いを大切にしたい課題を設定するまでの支援を工夫し、情報の効果的な集め方や表現の仕方を考え、取り組ませることで、子ども達は課題解決する学び方に気づき、主体的に学ぶことができるようになるであろう。 (3) 自分の学び方や学習を振り返る場を設定することで、子ども達は学んだことや学習の仕方に気づき、生活や他の学習に生かしていくことができるようになるであろう。																					
研 究 の 内 容 と 方 法	(1) 研究の内容 ① 研究仮説・めざす子ども像をもとに、『関わり合う力』・『学ぶ力』・『生かす力』を具体的にとらえ、手立てを工夫してねらいにせまる。 ② 生活科・総合学習+フリーの授業実践を互いに開き合い、研究の日常化を図っていく。 (2) 研究の方法 <pre> graph TD A[学級・学年・学校] --> B[研究推進委員会] A --> C[研究全体会] B <--> C </pre> 研究推進委員会 大宮（利）・池田・教頭・金山・加藤 開沼・高橋・古川・栗原・大宮（央） 研究推進委員会が中核となり、研究全般を推進する。特に、全校研のつながりと積み重ねを図る。また、「研究だより」の発行を行ったり、研究の日常化の推進を図る。 (3) 研究の日常化 気軽に開き合い、自他の授業を高めていく。全校研（年7回）、生活科・総合学習で全員1回指導案（略案も可）を書いて行う。そして、学年部で短時間でも見に行き、研究紀要に全員の実践をまとめる。 その他は指導案なしで、どの教科・領域で何回行ってもいい。 (4) 全校研 <table style="width: 100%;"> <tr> <td>◆ 6 / 11 (水)</td><td>< 2年4組生活科 ></td><td>⇄ 助言講師 (向出前教頭)</td></tr> <tr> <td>◆ 7 / 9 (水)</td><td>< 3年4組総合 ></td><td>⇄ 校 内</td></tr> <tr> <td>◆ 10 / 8 (水)</td><td>< 4年 総合 ></td><td>⇄ 助言講師 (外 部)</td></tr> <tr> <td>◆ 10 / 27 (月)</td><td>< わかたけ ></td><td>⇄ 校 内</td></tr> <tr> <td>◆ 11 / 19 (水)</td><td>< 1年 生活科 ></td><td>⇄ 助言講師 (外 部)</td></tr> <tr> <td>◆ 12 / 3 (水)</td><td>< 6年 総合 ></td><td>⇄ 助言講師 (外 部)</td></tr> <tr> <td>◆ 12 / 10 (水)</td><td>< 5年 総合 ></td><td>⇄ 校 内</td></tr> </table> (5) 授業分析と記録 授業記録は子ども達の『関わり合う力』・『学ぶ力』・『生かす力』の場面を詳しく残し、また、ビデオは全部とるが、焦点化した場面だけを事後研究会等で活用する。 そして、授業の自己分析や事後研究会で話し合われたことをもとにして、授業者が実践の成果と課題をまとめていく。 (6) 効果的な掲示 縦1.5m横4.5mの掲示板を昇降口近くに設置し、各学級・学年の歩みがわかるようにデジカメで撮影した物（学年・学級・時期・内容がわかる見出しを入れる）をはっていく。 (7) 学区唯一の自然「竜山川」の活用 1年を通して十分にひたることによって、自然の不思議さやたくさんの発見をし、知恵を身に付けていく。また、河川敷の畑に作物を植え、育て、収穫することによって、大変さと共に成就感や喜びが得られる。たくさん関わらせていきたい。	◆ 6 / 11 (水)	< 2年4組生活科 >	⇄ 助言講師 (向出前教頭)	◆ 7 / 9 (水)	< 3年4組総合 >	⇄ 校 内	◆ 10 / 8 (水)	< 4年 総合 >	⇄ 助言講師 (外 部)	◆ 10 / 27 (月)	< わかたけ >	⇄ 校 内	◆ 11 / 19 (水)	< 1年 生活科 >	⇄ 助言講師 (外 部)	◆ 12 / 3 (水)	< 6年 総合 >	⇄ 助言講師 (外 部)	◆ 12 / 10 (水)	< 5年 総合 >	⇄ 校 内
◆ 6 / 11 (水)	< 2年4組生活科 >	⇄ 助言講師 (向出前教頭)																				
◆ 7 / 9 (水)	< 3年4組総合 >	⇄ 校 内																				
◆ 10 / 8 (水)	< 4年 総合 >	⇄ 助言講師 (外 部)																				
◆ 10 / 27 (月)	< わかたけ >	⇄ 校 内																				
◆ 11 / 19 (水)	< 1年 生活科 >	⇄ 助言講師 (外 部)																				
◆ 12 / 3 (水)	< 6年 総合 >	⇄ 助言講師 (外 部)																				
◆ 12 / 10 (水)	< 5年 総合 >	⇄ 校 内																				